

国際法学会 2018 年度研究大会
公募審査結果

2018 年 3 月 25 日
研究企画委員会

国際法学会の 2018 年度研究大会における個別報告とパネルを公募しておりましたところ、多数のご応募を頂き、誠にありがとうございました。研究企画委員会において審査を行いました結果、下記のように採用が決定されましたので、お知らせします。

なお、順番は必ずしも報告順ではありませんので、その旨ご了解ください。

記

1. 個別報告

(1) 石川義道 (静岡県立大学講師) 「IUU 漁業対策としての輸入制限措置—国際法上の対抗措置—」

(2) 秋山肇 (国際基督教大学大学院博士課程) 「国際法における無国籍の予防と日本の国籍法制—歴史的な観点から—」

(3) 平見健太 (日本学術振興会特別研究員) 「国際経済法秩序の動態とその基底にあるもの」

(4) 今西靖治 (外務省軍備管理軍縮課長) 「核兵器廃絶への様々なアプローチ—共通の基盤としての透明性および検証可能性についての考察—」

2. パネル

(1) 「グローバル化時代における海洋生物資源法の再検討—国際と国内間の法・政策の連関をめぐる学際的対話の試み」

企画責任者兼座長：児矢野マリ (北海道大学教授)

報告者①：児矢野マリ (北海道大学教授) 「企画趣旨、本セッションの枠組・視点・基本的概念及び構成」

報告者②：堀口健夫 (上智大学教授) 「予防的アプローチに照らした海洋生物資源保全義務の発展と日本の国内実施」

報告者③：大久保彩子 (東海大学准教授) 「生態系アプローチに関する国際規範の発展と日本の国内実施」

報告者④：鶴田順 (明治学院大学准教授) 「IUU 漁業対策としての寄港国措置」

コメンテーター①：松本充郎 (大阪大学准教授)

コメンテーター②：田中良弘 (新潟大学准教授)

コメンテーター③：久保はるか (甲南大学教授)

コメンテーター④：阪口功 (学習院大学教授)

コメンテーター⑤：牧賢司 (水産庁許可係長)

(2) 「国連国際法委員会『人道に対する犯罪』条文草案が国際刑事法に与える影響」

企画責任者：洪恵子（南山大学教授）

座長：阿部克則（学習院大学教授）

報告者①：広見正行（上智大学特別研究員）「国際刑事法体系における ILC 条文草案の歴史的意義」

報告者②：妻木伸之（中央大学兼任講師）「ILC 条文草案における国家間協力と既存の ICC レジームとの関係」

報告者③：坂巻静佳（静岡県立大学准教授）「政府職員の刑事裁判権免除及び恩赦に関する ILC 条文草案と現行国際法との関係」

(3) 「民事訴訟における域外的な送達および証拠収集に関する現代的考察」

企画責任者：多田望（西南学院大学教授）

座長：早川眞一郎（東京大学教授）

報告者①：根岸陽太（西南学院大学講師）「域外的な送達・証拠収集に関する国際公法理論からの現代的考察」

報告者②：多田望（西南学院大学教授）「域外送達に関する現代的考察」

報告者③：竹下啓介（一橋大学准教授）「域外証拠収集に関する現代的考察」

報告者④：池田綾子（森・濱田松本法律事務所弁護士）「域外的な送達・証拠収集の実務に関する現代的考察」

以上